

異物と創作

京都文学レジデンシー03 オープニング・フォーラム

Kyoto Writers Residency 03 Opening Forum

Writing through Alien Materials

私たちは日々、異物と出あい、それを取りこんでいます。ワクチンのように免疫力を高める効果もあれば、未知の刺激となって退屈な日常にいろどりをもたらすこともあります。テクノロジーの進化は、生身の人間に、拡張的な身体の可能性を与えてくれます。一方で、民族間の軋轢による亀裂は、世界中でひろがっています。

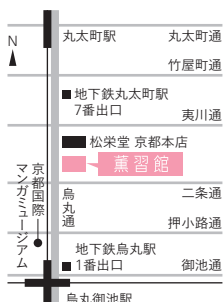
文学者は異物にどのように向き合っているのでしょうか。異物が創作にもたす影響とは？多様な地域から集まった文学者たちが、それぞれの考えについて語り合います。

We encounter alien materials every day and take them into ourselves. Some are known materials, like vaccines boosting our immunity, while others are unknown and may stimulate our mundane existence. Technological progress may open up possibilities of blending the human body with artificial materials, expanding the definition of human beings. On the other hand, we are alienating each other more than ever today, divided in the world in conflicts.

How do writers interface the things unfamiliar, unexpected, and alien in their writing? How do alien materials influence their creations? Writers from around the world will share their thoughts.

2024年、第3回京都文学レジデンシー(参加者は9月28日[土]から10月27日[日]まで滞在)のウェブサイトはこちら。進行中のイベント情報など、随時更新中。

<https://kyotowriters.org/kwr03>



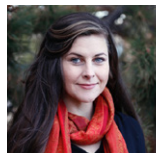
寄売舗 松栄堂

薫習館

KUNJYUKAN

京都市中京区烏丸通二条上ル東側
Tel: 075 212 5590 ※駐車場あり
営業時間10:00-17:00(不定休)
・地下鉄 烏丸線「丸太町駅」
7番出口 徒歩3分
・地下鉄 烏丸線/東西線「烏丸御池駅」
1番出口 徒歩5分

参加者プロフィール



© Ted Englemann

アンバー・アダムズ | **Amber Adams** | 米国

詩人、カウンセラー。コロラド州在住。デンバー大学で文学の修士号を、またレジス大学でカウンセリングの修士号を得た。2022年のデビュー作品集である*Becoming Ribbons*は、X.J. Kennedy 賞の最終候補に選ばれた。



© Laura Vansevičienė

オーシュラ・カジリューナITE | **Aušra Kaziliūnaite** | リトアニア

詩人、哲学者、作家。リトアニア、ヴィリニュス出身。人文科学博士。2018年の*mėnulys yra tabletė*をはじめ詩集が5冊刊行され、著作は19カ国語に翻訳されている。2018年にはアイオワ大学の国際創作プログラムに参加、2023年にはドイツのAkademie der Kunst文学部門からベルリン・フェローシップを受賞。



© Troy Giunipero

クレア・ウィグフォール | **Clare Wigfall** | 英国/ドイツ

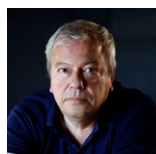
作家。ロンドン生まれベルリン在住。2007年にデビュー短編集*The Loudest Sound and Nothing*を刊行。翌年にはBBCナショナル短編賞を受賞のほか、E.M.フォースター賞候補者にも選出。Prospectや*The Dublin Review*、*Rekto:Verso*で作品を発表するほか、BBCラジオやNPRベルリンにてブックレビューも行なう。



© Robert Cross

コリーン・マリア・レニハン | **Colleen Maria Lenihan** | ニュージーランド

ニュージーランドのオークランドを拠点とするマオリ作家。15年間東京に住み、その間イベントプロモーター、ビデオグラファー、英語教師として働く。デビュー短編集*Kohine*には日本を舞台とした物語が数編収録。現在は映画や舞台の脚本執筆に力を注ぐ。



© Paola Mongelli

ダリオ・ヴォルトリーニ | **Dario Voltolini** | イタリア

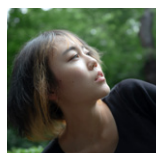
作家。トリノ生まれ。小説以外に、ラジオドラマやオペラ脚本も手掛ける。代表作の*Pacific Palisades*は、アレッサンドロ・バリッコによって演劇に翻案された。2024年、長編小説の*Invernale*がストレーガ賞最終候補作となり話題に。邦訳作に「エリザベス」(越前貴美子訳/「どこか、安心できる場所で」国書刊行会収録)がある。



© Paweł Mossakowski

クリスティーナ・ドンブロフスカ | **Krystyna Dąbrowska** | ポーランド

詩人・エッセイスト・翻訳家。ワルシャワ生まれ。2013年にポーランドで最も権威ある文学賞であるヴィスワヴァ・シンボルスカ賞、コンチェルスキ家賞を受賞のほか、2024年には米国プッシュカート賞を受賞。詩作は20カ国語に翻訳される。また、ルイズ・グルック、トム・ガンをはじめとする英語圏詩人の翻訳を手がける。



© Yuki Kobayashi

今宿未悠 | **Mew Imashuku** | 日本

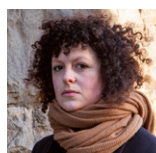
詩人。東京都生まれ。慶應義塾大学在学中にインターカレッジの詩誌「インカレポエトリ」に参加。2023年、第1回西脇順三郎賞新人賞受賞。第一詩集「還るためのブラクティス」を七月堂より刊行。インスタレーション/パフォーマンス作品の制作も意欲的に行なう。



© Pauline Reyes

パオロ・ティアウサス | **Paolo Tiausas** | フィリピン

詩人・パフォーマー。フィリピン・ラスピニャス生まれ。2020年の詩集*Lahat ng Nag-aangas ay Inaagnas*がマドリガル・ゴンザレス新人賞の最終候補に選出。2021年には国内で最も歴史ある詩の賞Talaang Gintoより「今年の詩人」に選ばれる。また「フィリピンのビュリッツァー賞」とも呼ばれるカルロス・バランカ記念文学賞の受賞者でもある。



© Garry Loughlin

ポリー・バートン | **Polly Barton** | 英国

日英翻訳家・エッセイスト。イギリス在住。2012年に第1回JLPP翻訳コンクールで最優秀賞を受賞。そのほか2016年にはKyoto Selden Memorial Translation Prize賞、2017年にはPEN/Heim Translation Fund Grantsを受賞している。著書に、日本語オノマトピアを題材にしたエッセー集*Fifty Sounds*、訳書に柴崎友香『春の庭』ほか多数。



トリスタン・ルドゥ | **Tristan Ledoux** | ベルギー

作家。ブリュッセル出身。ブリュッセル王立音楽院などで教鞭をとるかたわら、小説を執筆する。フランス語で出版された著書に、*Impressions d'école*や、*Entre les mailles du filet*など。2024年12月には*Le nanti et l'usurpateur*の刊行が予定されている。